

別記様式（第2条関係）

会 議 結 果 報 告 書

令和7年7月2日

会議の名称	第4回志木市総合振興計画審議会
開催日時	令和7年6月24日（火） 14時00分～15時40分
開催場所	市役所3階 大会議室3-3
出席者職氏名	[委員] 星野 敦子会長、大村 相基副会長、 吉澤 富美夫委員、岩澤 千恵子委員、田中 満男委員、 竹前 榮二委員、岡田 明彦委員、正能 武委員、 中村 勝義委員、碓 俊美委員、小笠原 順子委員、 木下 武三委員、久保 大地委員、白川 美津江委員、 那須 博志委員、抜井 貴之委員、松澤 真衣委員、 松波 雪枝委員 （計18人）
欠席者職氏名	今村 弘志委員、関口 清久委員、高橋 大輝委員、 大貫 結子委員 （計 4人）
説明員職氏名	政策推進課 松田課長、柴谷主査、矢野主任 ランドブレイン株式会社 菅原、稲葉、三溝 （計 6人）
議 題	1 開会 2 議題 (1) まちの将来像について (2) 第二次志木市将来ビジョン・前期実現計画（案）について (3) 第三期志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について 3 その他 4 閉会

結 果	議題（１）～（３）について、事務局より説明し、質疑応答を行った。 (傍聴者１人)
事務局職員氏名	松井市長公室長、松田政策推進課長、柴谷政策推進課主査、 矢野政策推進課主任
会議内容の記録（会議経過、結論等）	
1 開会 2 議題 ・議題の説明に入る前に、傍聴者の有無について確認を行った。 →傍聴希望者あり（１名） (傍聴希望者入室) ・松田政策推進課長から（１）について説明し、内容について質疑応答を行った。 （１）まちの将来像について (事務局) 欠席の委員から２件の意見をいただいたので報告する。 “今回示された将来像案は全体的に新鮮味に欠けありふれた印象を持った。いわゆる刺さる表現をした方が、市民が志木市に誇りを持ち、また市民以外に興味を持ってもらうことにつながるのではないかと。そういった点で、前回の案の方が総じて魅力的に感じた。それから「いいね！」が１０年後に古い言葉になっていないか、少し心配である。” “「よりそう」は価値観が多様化する現代に注目され、一人ひとりの居場所づくりの考え方に合致する。「いいね！」は堅苦しくなく、将来像を身近に感じてもらえると思う。どの案も１０年後の志木市の明るい行き先を示す、良い将来像だと思う。特に絆という言葉が、志木市で活躍する市民力を表現している。選び難いが、語感や「志木」という漢字からＢ案が良いと感じた。” (会長) 将来像Ａ案とＢ案は「いいね！がいっぱい」、Ｃ案とＤ案は「いいね！いっぱい」とあるが、「が」の有無の違いは意図的なのか。 (事務局) そのとおりである。語感や語呂を考えた際に事務局の中でも意見が割れたので、両方の案を作った。「が」を入れるか入れないかもご議論いただきたい。 (会長)	

意見はあるか。最終的には出席者全員から意見をいただく。

(委員)

自分はB案が良いと思ったが、暖かさを表現するため「心」という字も入れたい。「よりそう心、広がる絆。いいね！がいっぱい、志木のまち。」とするのはどうか。字面の見栄えも良いと感じる。

(委員)

D案が良いと思うが、最後の「住むなら志木市」が、少し押しつけがましさも感じる。もう少し表現を優しくしたい。

(委員)

2つのことをずっと考えている。1点目、「よりそう」のが「想い」なのか「やさしさ」なのかについて。優しさで寄り添うのか、人の心で寄り添うのか、どちらなのか。

2点目は語尾である。「しきぐらし」は、生活して成長して最期を迎えるまでという前回会議で話にあがった「揺りかごから墓場まで」の意味合いもあるが、その発想に至るまでに距離感があるので、「志木のまち」か「志木市」だと思った。

また、D案の「志木市」は行政区画としての「志木市」に限定されているような印象を受ける。「志木のまち」はひらがなの「まち」としているので、町内会等の「町」や「街」など色々な想像ができる。全体的にはB案が良いと思う。

(委員)

どれも良い表現だと思ったが、B案が良いと思う。優しさや心、想いなど色々あるが、やはり寄り添うことは人としてとても大事な気持ちにつながっていくと思う。また、絆という言葉が入っていて良い。それから「いいね！」は、SNSの言葉という面もあるが、皆が生活していく中で「いいね！」と認めてもらうといった意味につながっていくと思う。この表現は小さな子どもにも分かりやすいのではないか。「志木」の字は漢字の方が良いと思う。

(会長)

B案の「よりそうやさしさ」が先ほどから少し議論になっているが、「やさしさ」のままが良いか、あるいは「心」や「想い」の方が良いか、意見はあるか。

(委員)

想いの中に優しさが含まれ、心の中にも優しさがあると考えたら、大きく括った方が良いと思う。

(委員)

自分も同じような考えであり、優しさは心から生まれると考えている。しかし、人間は皆、優しさを持っていて、それは心から出ているが、「心」という表現は非常に幅があるのでB案の方が良いと思った。

(委員)

D案が良いと思う。「よりそうやさしさ」が良いのか、「心」が良いのかは迷っているところであるが、最後の「住むなら志木市」というワードが良いと思った。先日の市長選で市長が「住むなら志木市」「住みたくなる志木市」と言っていて、その印象が強かったのか、D案を推したいと思う。

(委員)

B案の「よりそうやさしさ」を「心」に変えることで語呂が良くなると思った。「志木」は漢字が良いと思っている。B案を少し変えて「よりそう心、広がる絆。いいね！がいっぱい、志木のまち。」が良い。

(委員)

語呂の良さからB案が良いと思っていたが、A案とB案で悩んでいる。A案の「よりそう想いが」と「いいね！が」の「が」を「で」に変えたら、少しニュアンスが変わってくると思った。「よりそう想いで未来をつくる。いいね！でつながる、しきぐらし。」だと少しニュアンスが変わって面白い。「志木」は漢字が良い。「志木ぐらし」と「志木のまち」はどちらが良いか分からない。

(委員)

私もA案かB案か悩んでいる。ご提案の「いいね！でつながる」は良いのではないか。最後の「しきぐらし」の「志木」は私も漢字の方がいいと思う。

B案については「よりそうやさしさ」ではなく「想い」の方が良いと思った。想いがあってこそ、絆が繋がっていく。A案であれば「いいね！が」を「で」に変更し、B案であれば「やさしさ」のところを「想い」に変更したい。最後の「しきぐらし」と「志木のまち」のところは漢字の「志木」を入れたいと思うため、前者であれば漢字の「志木ぐらし」としたい。

(委員)

欠席委員からの意見にもあったが、もう1つ何かインパクトがあると、心に残るのではないかと。アレンジ方法を議論する必要があるがB案が良いと思った。

(委員)

D案の「心」を漢字に変更し、「いいね！がいっぱい」の「が」を抜いた「よりそう心、広がる絆。いいね！いっぱい、住むなら志木市」とすることを提案する。「住むなら志木」だという言葉はインパクトがある。

(会長)

欠席の委員も含め、「インパクト」というキーワードが出てきている。

(委員)

昨夜までA案とB案で悩んでいた。「志木」はやはり漢字が良い。それから「しきぐらし」という言葉は、子どもたちに人気のキャラクターと結びついてしまう

ので違和感がある。

「よりそうやさしさ、広がる絆。いいね！がいっぱい」と言うと、2つの名詞が挙げられているが「本当はもっといっぱいあるんだよ」と、想像を膨らませられるので、「いいね！が」の方が良いと思っている。さらに「よりそう」のは「想い」か「心」か「優しさ」という点については、「広がる絆」に対して「想い」の方が何となくバランスが取れていて良いと思った。ただし「よりそう想い、」と句読点の方が良いような気がする。

(委員)

B案が良いと思った。皆さんの言うように、この「やさしさ」を「心」に変えて、「いいね！がいっぱい、志木のまち。」とするのが1番良いと思う。「志木」は漢字が良いと思う。

(委員)

甲乙つけがたいが、自分はA案が良い。

(委員)

基本的にB案が良いと思っているが、「よりそうやさしさ」ではなくて「よりそう心」が良いと思う。「志木」は漢字が良い。また、短くてインパクトのある方が良いと思う。「よりそうやさしさ」と言うと語感が長くなる印象を受けるが、「心」が入るとインパクトがあって、良いのではないかな。

(委員)

D案の「よりそう心、広がる絆。いいね！いっぱい、住むなら志木市。」か、前半は「よりそう心、広がる絆」のまま、後半をB案の「いいね！がいっぱい、志木のまち。」とするかが良いと思っている。B案の「よりそう」はひらがなが断然良いと思うが、ワンフレーズの全てがひらがなになるので、「やさしさ」だけ漢字にしても良いのではないかな。「絆」という言葉は震災を機に出てきた言葉であると思う。報道などを見ると、バックアップした方あるいはボランティアの方の「優しさ」や「心に寄り添う」という言葉を耳にする。B案とD案の後半は「志木のまち」よりは「住むなら志木市」と言い切った方が良いと思いののではないかな。どれも「よりそう」から始まっているが、過去の将来像は冒頭が“市民”、“住民”などの代名詞だったので、これまでにないキャッチフレーズの頭出しとなり、あまり目にしないキャッチコピーになると思っている。

(会長)

全体としてBを推す意見、それからDはインパクトがあって良いという意見が多かった。

(委員)

B案をベースとして、インパクトがあるDの一部分を組み合わせるのが良いの

ではないか。

(会長)

全員から意見をいただいたため、1つにまとめていきたい。

(委員)

B案が良いと思うが、漢字にした方が良いのではないか。ひらがなばかりだと、インパクトが足りなく感じる。

(会長)

まずはB案で「やさしさ」を漢字に変更したものをたたき台とし、ここから最終案につなげていきたいと思う。

「優しさ」の部分は、先ほどから「心」や「想い」など色々なご意見が出たがいかがか。

(委員)

「優しさ」を文字に起こしてみると、漢字にした際の難しさが気になる。先ほどB案と発言したが、インパクトを残すならD案が良いと思う。

(会長)

「優しさ」と漢字にすると込み入った感じがする。「絆」も比較的画数が多いので、もしかしたら「心」の方が、すわりが良いかもしれない。

(委員)

「よりそう心」が良いと思っていたが、「よりそう優しさ」を漢字で見ると「優」の字の中に「心」が入っているので、これも良いと思った。

(会長)

「優」には志木市がより上に進んでいくイメージもある。漢字は文字自体がたくさんの意味を持っており、漢字に置き換えることで意味の膨らみもでてくる。

「いいね！がいっぱい」と「いいね！いっぱい」については後に来る言葉にもよると思うが、「住むなら志木市」について、インパクトがあって良いという意見が結構出て来たが、これについてはどうか。

(委員)

D案の「住むなら志木市」が良い。「寄り添う優しさ」と漢字にすると、重みが出てきて本当に寄り添えるのかなという印象である。B案は前半が良いとっていて、今の段階では、漢字で「寄り添う優しさ」、後半は「いいね！いっぱい、住むなら志木市」とすることで、何かインパクトがある感じになった。

(会長)

「住むなら志木市」は強力なインパクトを持っていると思う。住んでいる人たちが思いを込めて、こういった言葉を出しているということが心強いと感じる。

「いいね！いっぱい、住むなら志木市」、または「いいね！がいっぱい、住むなら

志木市」の「が」を入れるかどうかの問題についてはいかがか。

(委員)

「志木のまち」が後に来るのであれば「いいね！がいっぱい」の方が何となく落ち着く。「住むなら志木市」というインパクトのある言葉を持ってくるのであれば、「が」はない方が良い。ただし、自分は「志木のまち」が好きである。

(会長)

最後は「志木のまち」と「住むなら志木市」のどちらが良いか、意見はいかがか。

(委員)

「市」より「まち」の方が親しみやすいのではないかと思います。「志木市」と言うと、1つの市ということに限られる気がする。

(委員)

先ほども、「志木市」と言ってしまうと行政区のイメージが強いという意見があった。そうすると、B案で「よりそう優しさ、広がる絆。いいね！がいっぱい、志木のまち。」と「やさしさ」のみを漢字に変える案が良いか。

(委員)

「よりそう優しさ」は漢字で書くとバランスが悪く見える。同じ「心」が入っている「よりそう想い」の方が、頭に「想」、最後に志木市の「志」で、それぞれ下に「心」が入っているので、見た目にもバランスが良いのではないか。「よりそう想い、広がる絆。いいね！がいっぱい、志木のまち。」とすると、語感的にも視覚的にもバランスが綺麗である。

(会長)

これまでの議論を踏まえた①「よりそう優しさ、広がる絆。いいね！がいっぱい、志木のまち。」、②「よりそう想い、広がる絆。いいね！がいっぱい、志木のまち。」、③「よりそう優しさ、広がる絆。いいね！いっぱい、住むなら志木市。」、④「よりそう想い、広がる絆。いいね！いっぱい、住むなら志木市。」の4案から挙手をお願いします。

(採決)

1回目：①5名、②5名、③5名、④1名

2回目：①5名、②6名、③5名

(会長)

1票差で、②「よりそう想い、広がる絆。いいね！がいっぱい、志木のまち。」で良いか。

(委員)

良い。

・松田政策推進課長から(2)(3) について説明し、内容について質疑応答を行った。

(2) 第二次志木市将来ビジョン・前期実現計画(案)について

(3) 第三期志木市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

(委員)

基本目標に対する目標指標やK P Iはどのような基準で設定したのか。目標値が少ないと思われるもの、または高いと思われるものがある。

(事務局)

基本目標2と基本目標3の目標指標については、目標人口を定める際の推計値を利用している。基本目標1の法人市民税均等割納税義務者数については、明確な基準があるわけではないが、担当課にヒアリングをしながらどこまで伸ばすことができるか、政策的にどこまで伸ばすべきかといったところを考慮して設定している。基本目標4の定期外乗降客数については、コロナ禍で人の移動が大幅に減少した時期から回復傾向にある中で、コロナ禍前に策定した前回計画の目標値42,400人を上回る数値として設定した。

K P Iについても担当課にヒアリングをしながら設定している。指標の性質を踏まえて担当課で考えた目標値になっているので、この場で一つひとつ説明するのは難しいが、例えば、補助制度の利用件数などについては、どの程度伸ばしていくべきかを考えたものになっているが、基本目標2の「各中学校区における週4コマ以上の乗り入れ指導の実施校」の目標値4校は、市内の全中学校区でこのレベルまで充実させるという目標になる。

(委員)

基本目標3のK P Iの5年後の目標値が50%というのは低すぎるのではないかと思ったが、担当課と調整しているのでそんなことはないということで良いか。

(事務局)

「こども誰でも通園制度」は、在宅で子育てをしている方でもお子さんを保育園に預けることができるという制度であり、必ずしも誰もが使うという制度ではない。もちろん必要な方には積極的に使っていただきたいが、必要がある方とそうでない方がいらっしゃる中で、市から「必ず登録してください」と促す制度ではないと考え、担当課と調整したうえで50%としている。

(委員)

利用するかどうかはその個人が選択すれば良いことである。利用したくても枠がなく、利用できないという話を聞いたことがあるので、登録は100%を目指した方が良いと思う。

(事務局)

意見として担当課に伝える。

(委員)

「法人市民税均等割納税義務者数」とは何を示すのか。

(事務局)

法人市民税には「法人税割」と「均等割」がある。法人所得に応じて納めるものと、法人所得に関係なく法人が納めなければならないものの2種類であり、法人が必ず納めなければならないものが均等割である。「均等割」の納税義務者数、すなわち、市内にある法人の数を示している。

(委員)

「中心市街地にかかる補助制度の利用件数」は、現状値である3件の10倍となる30件を目標値としている。小規模の店舗など新しくできるものだと思うが、市内の人、市外の人などは関係あるか。

(事務局)

本町通りの駅前から親水公園あたりまでを中心市街地エリアとして設定しており、そこに出店などをする人が対象であるため、市外の方でも対象である。

(委員)

「20～40代の転入超過数」を145人から370人に増やすという目標を立てるのは良いが、具体的にどのようにしていくのかについては記載しないのか。

(事務局)

まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定趣旨の説明で少し触れたが、東京の一極集中の是正という考え方があることから、地方では移住制度を利用して転入した方に補助を出すなど移住に特化した施策を展開しているが、志木市の場合は、保育の待機児童を減らす、質の高い教育として複数少人数指導体制を充実させる、水泳指導を民間のプール専門のインストラクターが教えるといった施策を進めることで転居先としての魅力をつくっている。将来ビジョンと方向性を一にしていることから、今回の計画から将来ビジョン・前期実現計画と一体的に策定しており、具体的な施策については前期実現計画の中で掲載している。住みやすいまちづくりを進めることで選ばれる志木市になり、転入超過の目標値を達成して人口増につなげたいと考えている。

(会長)

今の総合戦略の基本目標2の目標指標「20～40代の転入超過数」の下に「関連する基本的施策」として「2-1 子ども・子育て支援」「2-2 学校教育」とあり、「2-1 子ども・子育て支援」は、資料2の21ページに具体的施策として実際にどのようなことに取り組むのかが書かれている。ただし、「基本目標の達成に資す

る全ての基本的施策を対象とします」と書いてあるので、この「2-1 子ども・子育て支援」「2-2 学校教育」以外の施策も関連していることになる。

(委員)

基本目標の1から4までが全分野の実現計画に横断的に入ってきているのか。

「3-2 にぎわい創出、観光」は基本目標1と基本目標4に掲載されているが、例えば、現在掲載のない前期実現計画の「1-2 スポーツ振興」等はどこに入ってくるのか。

(事務局)

「1-2 スポーツ振興」の中でも、若者や子どものスポーツの機会の充実に向けた施策があり、これは基本目標2に関わってくる。基本目標が全ての施策に紐づいているというわけではないが、各課で様々な事業に取り組むにあたっては、この4つの視点を持ってほしいということである。

(会長)

基本的施策の中でも基本目標に中心的に関わるものもあれば、そうでないものもある。例えば、基本目標2であれば、「2-1-2」のように関連する具体的施策までを細かく書いても良いのではないか。

(事務局)

検討する。

(委員)

この目標値は、行政としての目標というよりも、結果的にこの数字に落ち着く、という解釈で良いのか。

(事務局)

施策をしっかりと進めれば、ここまでは達成できるだろう、という数値である。単に進行しているだけでは届かないが、工夫を重ね施策を進めることで達成できる可能性がある数値を担当課とのヒアリングによって設定している。

(会長)

他にないようなので、以上をもって、本日の議題をすべて終了する。

3 その他

4 閉会

備考 会議内容の記録には、発言者の立場を明記するとともに、発言の趣旨が容易に理解できるよう簡潔明瞭に記載すること。